

1. ごあいさつ

名古屋大学環境学研究科附属地震火山・防災研究センターにとって、この5年間はそれまでの20年間の変化にも匹敵する急激な変化を経験した時期でした。2003年には災害対策室の設置に伴う地域防災分野の設置により4名の増員がありました。5年間に人員の大幅な入れ替わりがあり、5名の定年退職者を送り出すとともに、4名の新人を採用しました。このご挨拶を書いている山岡も3年間東京大学地震研究所勤務となり、名大を留守にしていました。さらに国立大学法人化による大学の管理運営体制の変化、それにとまなう予算の流れも大きく変化してきました。国立大学法人化によって、従来省令によって定められていた大学内の研究所や研究センターや大学の判断により改廃が可能となり、大学内あるいは部局内における研究センターの存在をいかにアピールしていくかが重要な課題となりました。研究費も、科研費や運営費交付金などの学術あるいは基礎的研究に費やされる経費にくわえ、文科省等の政策的な委託研究経費が大きなウェイトを占めるようになってきました。このような中、自分たちの研究のアイデンティティをしっかりと保っていく必要があります、そうでなければ外部の大きな力に翻弄されてしまいます。

一方、われわれの研究センターの中心課題である地震予知および火山噴火予知研究については、全国の関連研究者による議論を踏まえ、国の科学技術・学術審議会測地学分科会からの建議として公表され、平成21年度からは地震予知と火山噴火予知研究を統合した「地震及び火山噴火予知のための観測研究計画」として5カ年計画としてスタートします。この建議は、予算を確保するためという側面もありますが、予算的にきびしい状態が続く現状では、地震予知や火山噴火予知による災害軽減を目指す基礎的な研究としてこの5年間でどのような内容で実施すべきかについて国民に向けて示したうえで実施することに意義があると考えています。それなりの人員と予算が確保されている地震・火山噴火予知研究の分野では、基礎研究といえどもわれわれの研究の方向性を示すことは国民に対する義務と考えています。この計画の成果は、上記の測地学分科会のものに設けられた委員会によって毎年まとめられ、印刷物やウェブで公開されています。この成果報告書は、一般にも公開されていますが、われわれ専門家にとっても情報の宝庫としてたいへん貴重なものとなっています。

われわれの研究センターは、大学院環境学研究科の附属組織として、大学院教育にも携わっています。大部分の教員は地球環境科学専攻の地球惑星ダイナミクス講座の教員として学生指導に当たっているほか、一部の教員は都市環境学および社会環境学専攻の学生指導を行っています。地球惑星ダイナミクス講座に限れば、修士については平成20年度入学について10名の学生指導を担当しています。しかしながら、博士課程の学生については、近年のポストクの就職問題を反映してか、十分な学生数を確保できていないのが現状です。これは将来の地震・火山研究を担う人材を養成するというわれわれ

の使命を果たす上で大きな課題となっています。

このように、多くの課題が山積する中で最も重要なことは、独自の研究成果を出し、地震・火山噴火予知や防災に関する学術の進歩に大きく貢献していくことだと思います。最近、様々な仕事を大学教員がこなす必要があり、教員が極限まで多忙になっています。しかし、地震火山・防災研究センターとしては、地震や火山噴火のしくみの解明や予測、また災害軽減の研究など、学術に貢献する成果を出していく必要があります。興味深い研究成果を出すことにより、好奇心旺盛な若い学生も集まってくるのです。われわれの分野は、地震や火山噴火災害の軽減に資する研究が使命ですが、学術的成果を社会に生かすしくみとしては地震調査推進本部があり、学術の進歩を通じた社会への成果還元がなされています。したがって、われわれの研究センターは、学術的な成果が出すことが何より求められているわけです。

大学の組織ですから、知識の普及を通じた社会への成果還元も大事な使命です。出版物、セミナー・講演、マスコミなどを通じた知識の普及も積極的に行っていますが、3年前からは JICA の研修を通じた途上国への知識の普及にも貢献しています。

このような私たちの研究センターの1年間の活動をまとめたのが、本報告書です。みなさまの忌憚なきご意見ご批判をお待ちしています。

2008年9月

地震火山・防災研究センター長
山岡耕春

2. 2007年度構成員

1. 教員

職名	氏名	研究分野	備考
教授/センター長	山田 功夫	地震観測	
教授	鈴木 康弘	活断層・防災地理学	地域防災分野（災害対策室）
教授	木股 文昭	測地学	
教授	山岡 耕春	地震活動モニター	2007. 4- 東大地震研究所より
教授	鷺谷 威	地震学	2008. 1- 現職
准教授	山内 常生	地殻変動	
准教授	渡辺 俊樹	物理探査	
准教授	飛田 潤	地震工学・防災	地域防災分野（災害対策室）
准教授	田所 敬一	地震観測・海底観測	
准教授	山中 佳子	地震学	2007. 4- 東大地震研究所より
助教	山崎 文人	地震観測	
助教	林 能成	地殻活動・防災	地域防災分野（災害対策室）
助教	木村 玲欧	防災心理学・防災施策	地域防災分野（災害対策室）
助教	伊藤 武男	地殻変動	
助教	中道 治久	火山学・地震観測	

2. 招聘研究者

職名	氏名	所属機関	滞在期間
客員教授	金森 博雄	カルフォルニア工科大学	2008. 01. 08-2008. 03. 07
客員研究員	Toto Bacolco	フィリピン地震火山研究所	2008. 01. 10-2008. 03. 10

3. 技術職員・研究員等

職名	氏名	研究/担当分野（業務内容）	備考
技術職員	山田 守	地震観測	全学技術センター
技術職員	奥田 隆	地震観測	全学技術センター
外国人特別研究員	Irwan Meilano	火山測地	
研究員	杉戸 信彦	変動地形学・古地震学	
研究員	渡部 豪	海底地殻変動・テクトニクス	
研究員	羽佐田 葉子	アクロス・地震学	
研究員	杉本 慎吾	海底地殻変動	
技術補佐	仮屋 新一	火山測地・地殻変動	2007. 10 まで
技術補佐	中橋 新子	データ処理・web 担当	
技術補佐	柴山 由里子	地震波形読取	
事務補佐	一色 美和子	事務補佐一般	
事務補佐	金原 みどり	事務補佐一般	
事務補佐	水野 貴志子	事務補佐一般	
事務補佐	稲吉 直子	事務補佐一般	地域防災分野（災害対策室）
その他	尾崎 菊枝	三河地殻変動観測所	
	宮垣 美智子	高山地震観測所	
	林 冬人	八丈島観測点	

4. 学生

博士課程後期	氏名	研究分野	担当教員
D3	Mohd Effendi Daud	地殻変動	木股
D1	Agustan	地殻変動	木股

博士課程前期	氏名	研究分野	担当教員
M2	石川 溪太	地殻変動	木股
M2	大石 真紀子	地震学	鷺谷
M2	安田 仁	海底観測	田所
M1	小澤 和浩	地殻変動	鷺谷
M1	亀山 貴司	アクロス	渡辺
M1	木元 章典	海底観測	田所
M1	福田 真人	地殻変動	鷺谷
M1	古川 俊之	アクロス	渡辺
M1	武藤 大介	海底観測	田所
M1	山本 淳平	地球潮汐	伊藤

学部4年生	氏名	研究分野	担当教員
B4	朝日 友香	地殻変動	鷺谷
B4	伊藤 卓	地殻変動	伊藤
B4	糸永 雄一	地殻構造	渡辺
B4	富永 岳志	地殻変動	伊藤
B4	橋田 悠	火山地震	中道
B4	山崎 賢志	アクロス	渡辺
B4	吉本 昌弘	震源過程	山中